

vol.04

2018年 7月発行

くりらぼ通信

p1-2. everydayくりらぼ | p3. くりらVOICE | p4. リレーコラム／information

everyday
くりらぼ
2017.11~2018.6

くりらぼ多摩川では、下記「ふりかえりList」にあるように、日々いろいろな活動を行なっています。今号では、5つの活動をご紹介します。

ふりかえり List ▶▶

- 11/12** ART FACTORY城南島
ワークショップ
[木工体験・ヒノキのお箸づくり]
- 11/25** おおたオープンファクトリー初日
- 11/29** 町工BAR vol.20
[製作者と奏者、生み出す世界]
- 12/2** おおたオープンファクトリー最終日
- 12/9~10** 多摩川オープンアトリエ
- 1/21** family workshop 2018
DRESS! by ユリイカ百貨店
- 2/24** 町工BAR vol.21
[新田神社の歴史と武蔵新田の今昔]
- 2/25** くりらぼワークショップ
[おおたのまちの思い出を作ろう!]
- 3/10** THE PARTY 2018 @ 大田区産業プラザPio
[廃材ハンコでエコバッグを作ろう]
- 3/18** 日曜くりらぼ倶楽部ワークショップ
[万華鏡を作ろう!]
- 3/24** くりらぼ多摩川出張ワークショップ
@ 大田区観光情報センター
- 3/25** くりらぼ多摩川出張ワークショップ
@ 二十一世紀桜まつり
- 4/21** 町工BAR vol.22
[妖精の輝き
～オードリー・ヘップバーンの生涯～]
- 6/30** 町工BAR vol.23
[田園都市株式会社創立100周年を
テーマとしたブランドプロモーション]
たまりBAR

不定期
(1~2回/月) 日曜くりらぼ倶楽部
(大人のための工作倶楽部)



2月
25
くりらぼワークショップ
おおたのまちの思い出を作ろう!

「くりらぼの周りでお気に入りの場所見つけた!!」

まちを歩き回って見つけた、「おもしろい!」をインスタントカメラで撮り、写真と共にその思い出を瓶に閉じ込めて持ち帰ってもらおう!というコンセプトのワークショップ。子供たちは、顔やハートに見えるもの、小さなカーブミラーなどそれぞれの感性でおもしろいと思うものを見つけ、インスタントカメラで撮った写真にペンで書き込むことで写真を完成させました。何気なく通っている道も自分なりのおもしろいポイントを探して歩くと、その道やまちに愛着が湧いていきます。このお気に入りの場所探しが、まちを楽しむ視点の一つになるといいと思います。



▲新田神社でお気に入りを見つけたようです! おみくじが人の形みたいに結ばれている不思議な光景を、慣れないインスタントカメラで記録していきます。



▲お気に入りの場所に自分の旗を立てて撮った写真を、工場から出た切子や砂と一緒に瓶に詰めました。最後にみんなで作品を手を持って記念写真を撮りました!

リレーコラム

新田丸と私



くりらぼ多摩川のある下丸子・武蔵新田エリアに新田丸エリア。横浜国立大学の学生である私たちの新田丸への想いを綴ります。

今回のテーマ 『はじめての工場見学』

「おもちゃ箱をひっくり返してみたい。」

生まれて初めて工場の中に入り、率直にそう思った。つい数分前までは平凡な住宅街にいたはずなのに、明らかに先ほどまでとは異なる世界が違っていた。そうか、これが工場なのか。

今回伺ったのは、下丸子で溶接業を営まれている「共栄溶接」さんである。工場見学に来た私たちに、従業員の波田野さんは目の前で溶接をする様子を見せてくれた。「強い光が出るので気を付けてくださいね」。先の尖ったペンのような道具を構え、そう仰った。え、光? そう思った瞬間、突然現れた白い光が目が痛くなった。そして作業台の上を見ると、バラバラであった二枚のステンレス製の板は見事にくっついていた。

続いて波田野さんは、次の仕事で扱う大きな二枚の鉄板を見せてくれた。こんな大きなものの溶接も手作業で行うのかと驚いた。

波田野さん曰く、見栄

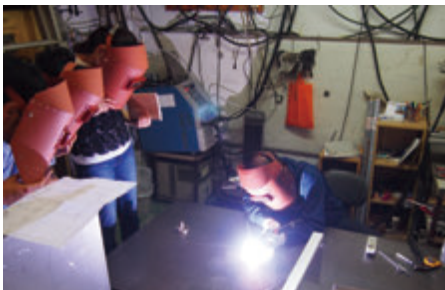
えが良くなるように綺麗に溶接するコツは、あまり手を止めずに行うことらしい。また、道具の先端を板からほんの少しだけ浮かした状態で、狙ったところに、強すぎず弱すぎない絶妙な加減で溶接をしなければいけないとも教えてくれた。相当な訓練をしないと高品質な作業ができない、とても職人性が求められる仕事だと感じた。自らの仕事に誇りを持っている様子が、とてもかっこよかった。



▶指一本を作業台につけて支えにしつつ、正確に道具を操っていく。



▶住宅街の真ん中に位置する共栄溶接。一見何の工場か全く分からない。



▶溶接面をつけ暗い視界の中で作業する波田野さん(右)とその様子を見学する横浜国立大学の学生たち(左)。



文／張安(ちようあん)
横浜国立大学都市科学部都市社会共生学科所属。
生粋の大田っ子であるが、今回が生まれて初めての工場見学だった。

information

ちっと
@ くりらぼ多摩川

魅力ある「モノづくりのまちづくり」を推進する活動拠点である「くりらぼ多摩川」。

ここでは、くりらぼ多摩川にて今後開催予定のイベントをいち早くお届け!

隔月開催! /

たまり BAR

たまり場? 多摩リバー?
「たまり BAR」!!

8/25



酒場(BAR)としてだけでなく、様々な人が交流・情報交換できる場(BAR)として「たまりBAR」をオープンします! くりらぼ多摩川で活動しているメンバーがパーテンドーとしておもてなし! 何か新しいコトがしたい人!是非お越しを。

時間: 17:00~21:00 ※予約不要
場所: くりらぼ多摩川事務所棟
会費: お気持ち

町工 BAR vol.24

工場男子 × 工場女子
～ファインダーを通して見る若き職人たち～

8/25



第6回おおたオープンファクトリーにて、大学生有志の企画として開催された写真展「工場男子×工場女子」をフィーチャー。写真展のコーディネーターと町工場の職人とともに取材や当日の展示の様子、実施後の反響について振り返ります。

時間: 18:00~ ※要予約
場所: くりらぼ多摩川工場棟
料金: 1000円(ワンドリンク・おつまみ付)

くりらぼワークショップ

布とプラバンで作るイヤーク
セサリーワークショップ

7/16



町工場から出た布の端材とプラバンを組合わせて、イヤークセサリーを作ってみませんか??イヤリングまたはピアス、お好きな方を選んで作ることができます。より本格的でオリジナリティあふれる作品と一緒に作りましょう!

時間: A. 10:00~ B. 13:30~ ※要予約
場所: くりらぼ多摩川事務所棟
料金: 1500円(材料費込、お茶お菓子付)

【くりらぼ通信】vol.04 くりらぼ通信は、創造製作所「くりらぼ多摩川」が不定期に発行する活動報告紙です。

発行日: 2018 年 7 月 1 日 発行元: くりらぼ多摩川 〒146-0093 東京都大田区矢口1-21-6 (東急多摩川線武蔵新田駅より徒歩約5分)

編集協力: 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター・一般社団法人大田観光協会 公式HP: <http://www.o-2.jp/lab/index.html> Facebook: <https://www.facebook.com/kurirabo>

事務局: 一般社団法人 大田観光協会 〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20 大田区産業プラザ2 階 TEL 03-3734-0202 FAX 03-3734-0203 MAIL cre.lab@o-2.jp

11月
12

ART FACTORY城南島ワークショップ 木工体験・ヒノキのお箸づくり！



カンナを使ったオリジナルのお箸づくりを体験

第7回おおたオープンファクトリーの連携企画として、大田区城南島にあるアートの複合施設ART FACTORY城南島さんによるワークショップが開催されました。ヒノキの角材をカンナで削り、ヤスリがけと面取り、塗装をして自分だけの箸を作り上げます。カンナで木材を削るとき、木くずが繋がっていればきれいに削れている証拠になるそうです。体を動かして力を入れないうえにきれいに削れない難しい作業でしたが、講師の方にアドバイスをもらい、きれいに削っていました。

1月
21

family workshop 2018 DRESS! by ユリイカ百貨店



受注と発注、町工場仕事を体験を通して理解

物語とパフォーマンスを手掛けるユリイカ百貨店さんの親子ワークショップ。テーマは町工場の受注と発注。友達が「発注」したものを「受注」し、色紙や廃材で作リ発注者に届けます。作品発表会では発注者からの「すごい！」という言葉に、嬉しそうな表情をするが印象的でした。最後は作ったものを巨大な透明シートに付けてカラフルなドレスに。自分が一生懸命作ったものが人に喜ばれる嬉しさを知ることができたのではないのでしょうか。（このイベントは「子どもゆめ基金事業」です）

11月
29

町工BAR vol.20 @おおたオープンファクトリー 製作者と奏者、生み出す世界

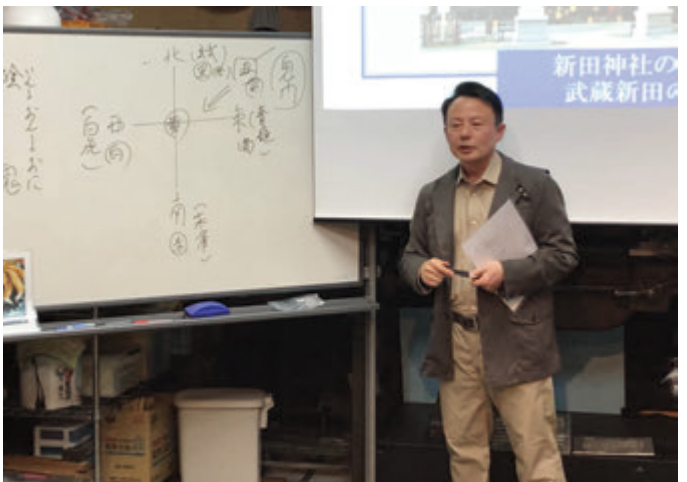


トーク&ライブ「ハンドパンナイト」！

UFOのような外観が特徴的な金属製の楽器「ハンドパン」の製作者・園部良さんと、奏者・峯モトタカオさんをお迎えしました。園部さんは東糞谷でアトリエを構えておられ、彼のハンドパンには新田丸エリアのへら絞りの技術が活かされています。峯モトさんはアジアを中心に世界各地で路上ライブを行い、多くの方が魅了されてきました。トークをはさみながら峯モトさんのライブが行われ、ハンドパンの「脳内麻薬物質が降りてくるような音」「体にしみわたる音」にお客さん全員が酔いしれました。

2月
24

町工BAR vol.21 新田神社の歴史と武蔵新田の今昔



伝統ある神社の宮司に学ぶ日本人のこころ

新田神社の宮司である品川宗久さんをお迎えして、新田神社の歴史や、神社にまつわる様々なエピソードをお話いただきました。知ってそうで知らなかった、神社や神様にまつわるお話が次から次へと紡がれ、どんどん宮司さんのお話に引き込まれていきます。日本は様々な宗教を受け入れる文化があり、それが日本人のおおらかなさを象徴しているという話は宮司さんのおおらかな生き方そのものだと思いました。質問コーナーではたくさんの質問が飛び交い、とても盛り上がりしました。

第3回

くりらVOİCE

くりら VOICE（ヴォイス）では、くりらぼ多摩川に所縁のある方にクローズアップ！ご本人のこと、くりらぼとの関わりなど、ここでしか聞けない声をお届けします。



栗原 洋三さん

(一社)OCTC^(※1) 副センター長 兼 (一社)大田観光協会^(※2) 常務理事

一般社団法人大田観光協会の前事務局長であり、おおたオープンファクトリーの初回より運営メンバーでもあった栗原さん。大田区の観光に携わるきっかけやくりらぼとの出会いについてなど、馴れ初め話を伺ってきました。

サラリーマンから観光協会へ

ー観光に携わるきっかけを教えてください。

栗原：自動車の輸出関係の仕事をしていて、海外赴任から帰ってきた後、49歳で本社ビルを管理する会社に出向になりました。そこはオフィスビルなんだけど、アトリウムとホールがイベント用にあって、貸し出すために作られていたのに、賃料がとて高くて閑散としちゃったんです。そこに人を呼び込むことが僕の仕事でした。そこで、まず地域とつながろうと思って、品川の観光協会をいきなり訪ねたんです。そこから観光協会の人と一緒にイベントの企画を始めました。それまで会社一筋とも言えませんが、地域のことに関わったことが全くなかったのでもとても新鮮でした。

ーなぜ大田観光協会の事務局長になられたのでしょうか。

栗原：活動を続けるうち、観光協会の横のつながりで大田観光協会と知り合いになりました。62歳でリタイアしてのんびりしようと思ったら、大田区産業振興協会の部長さんから電話がかかってきて、「大田観光協会の事務局長をやってくれないか」と依頼されました。だからどうしてもしょうがないので、引き受けることにしました(笑)。

くりらぼ誕生秘話

ー栗原さんはくりらぼの開設に尽力されています。元々町工場だったくりらぼ多摩川をどのように知ったのですか。

栗原：首都大学東京や横浜国立大学の研究室と共に大田区のものづくりについて調査し始めた時に、『一人職人の工場』が集積したこのくりらぼ周辺のエリアの存在を知りました。

ー町工場はなぜくりらぼ多摩川に生まれ変わったのでしょうか。

栗原：空き工場だった時期に、おおたオープンファクトリーの拠点としてイベントの時のみお借りしたのが始まりです。その時大田区の人に「ここを区で借りられませんかねえ」という話をしたら、とんとん拍子で話が進んじやって。結局は都と区から、改装の費用も含めた助成金を大田観光協会に出してもらえることになりました。

くりらぼに対する意気込み

ーくりらぼで今後取り組みたい事がありますか。

栗原：ここ数年はちょっとサボっていましたが、今年からはくりらぼをもっと活性化しようと思っています。町工BARや自前のワークショップをやったり、ふらっと来た人が見られるような常設展や特別展を行ったりとか。くりらぼを、地域の人みんなの空間にする努力をもう一度始めようと思っています。いまは僕がずっとやりたかった新企画『たまりBAR^(※3)』の今後が楽しみです。

(※1)
一般社団法人 おおたクリエイティブタウンセンター(OCTC)：
大田のモノづくり「技術」と活気ある「生活」新たな「価値創造」を重ね合わせたクリエイティブタウンを育むことを目的とした公民学連携の法人。

(※2)
一般社団法人 大田観光協会：
大田区の持つ地域力を活かした観光まちづくりを推進する一般社団法人。大田区の歴史や産業にまつわるまち歩きや観光資源を活かしたイベントを企画している。
栗原さんは前事務局長。

(※3)
たまりBAR：
大田区や工場に関わりのある人をお招きして、その想いを語ってもらう『町工BAR』と同時開催の新企画。詳しくはp4参照。

ー
Profile
栗原 洋三 Yozo Kurihara
前大田観光協会事務局長。
近年はくりらぼでの企画「町工BAR」に力を入れており、様々なジャンルの登壇者をコーディネートしている。また、登壇者にまつわる企画展も計画中とのこと。